

令和2年度
劇場・音楽堂等機能強化推進事業
(地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業)
成果報告書

団 体 名	アドブレーション・共立・NTT-F 共同事業体	
施 設 名	YCC 県民文化ホール（山梨県立県民文化ホール）	
助 成 対 象 活 動 名	人材養成事業	
内 定 額 (総 額)	3,233	(千円)
	公 演 事 業	0 (千円)
	人 材 養 成 事 業	3,233 (千円)
	普 及 啓 発 事 業	0 (千円)

(1) 令和2年度実施事業一覧【公演事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	
1				目標値	
				実績値	
2				目標値	
				実績値	

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

(2) 令和2年度実施事業一覧【人材養成事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	やまなしジュニアオーケストラ 2020人材育成プロジェクト「国際青少年交流音楽祭 オーケストラの日」	2020年7月5日(日)	(演目)交響曲第9番『新世界より』(抜粋)他 (出演者)ペーター・シュミードル、 やまなしジュニアオーケストラ、 台湾から二校、香港から一校他 (主催)富士山河口湖音楽祭実行委員会 ※新型コロナウイルス感染拡大の影響により、開催中止。	目標値	参加 40
		河口湖ステラシアター		実績値	なし
2	やまなしジュニアオーケストラ 2020人材育成プロジェクト「夏休み交流合宿&森の音楽堂コンサート」	2020年9月20日(日)～ 9月21日(月・祝)	(内容)①やまなしジュニアオーケストラ 単独ステージ ②品川ジュニアフィルハーモニーオーケストラ 単独ステージ ③合同ステージ (出演者)やまなしジュニアオーケストラ、 品川ジュニアフィルハーモニーオーケストラ (主催)アドブレン・共立・NTT-F 共同事業体 ※新型コロナウイルス感染拡大の影響により、 開催中止。	目標値	入場者 250 参加者 60
		清里の森		実績値	なし
3	やまなしジュニアオーケストラ 2020人材育成プロジェクト「音楽の都 ウィーンからの贈り物コンサート」	2020年10月17日(土)	(出演者) マティアス・シュルツ(フルート)、 クリストフ・ツィムバー(クラリネット)、ステ ファニー・ガンシュ(オーボエ)、ヨナス・ルー ドナー(ホルン)、ベネディクト・ディンクハウ ザー(ファゴット) (主催)アドブレン・共立・NTT-F 共同事業体、 山梨県 (後援) 駐日オーストリア大使館、山梨県人会 ※新型コロナウイルス感染拡大の影響により、 開催中止。	目標値	入場者 600 参加者 40
		YCC県民文化ホール		実績値	なし
4	やまなしジュニアオーケストラ 2020人材育成プロジェクト「やまなしジュニアオーケストラ まるごと体験教室 Vol.2」	2021年2月23日 (火・祝)	(演目)鍛冶屋のポルカ 他 (出演者) やまなしジュニアオーケストラ講師陣 (主催) アドブレン・共立・NTT-F 共同事業体	目標値	参加者 70
		YCC県民文化ホール		実績値	入場者 100 参加者 50
5	やまなしジュニアオーケストラ 2020人材育成プロジェクト「やまなしジュニアオーケストラ 第10回記念定期演奏会」	2021年3月28日(日)	(演目) 交響詩「フィンランディア」、交響曲第 9番「新世界より」(抜粋)、チャルダッシュ、タ イスの瞑想曲 他 (出演者)古澤巖、 やまなしジュニアオーケストラ (主催) アドブレン・共立・NTT-F 共同事業 体、山梨日日新聞社・山梨放送	目標値	入場者 450 参加者 : 60
		YCC県民文化ホール		実績値	入場者 600 参加者 85

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

(3) 令和2年度実施事業一覧【普及啓発事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1				目標値	
				実績値	
2				目標値	
				実績値	

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

2. 自己評価

(1) 妥当性

自己評価

社会的役割（ミッション）や地域の特性等に基づき、事業が適切に組み立てられ、当初の予定通りに事業が進められていたか。

当事業体は芸術文化に対して「年齢・性別・国籍を問わず、人々の心に他では得られない感動を与えるものである」、また、劇場に対して「アマチュア・プロ分け隔てなく、実演家と観客が一体となって感動や喜びを共有することのできる場であり、公演に向けた準備においても様々な人々のつながりを生むことにつながる」ものと位置付けている。以上を踏まえ、「当施設の運営を通じ、全ての人々が、文化芸術を通して、生きがいや活力を得、人々とのつながりを広げ、より充実した生活を送ることができる山梨の基幹施設としての役割を果たすこと」を社会的役割（ミッション）としている。

さらに、山梨県は平成30年に『山梨県文化芸術基本条例』を掲げており、山梨の文化芸術振興を担う中核施設である当施設としては、この条例が示す「心豊かな県民生活及び活力ある地域社会の実現」についても上記同様、目標と捉えながら本事業「やまなしジュニアオーケストラ 2020 人材育成プロジェクト」を組み立てた。

■ 山梨県文化芸術基本条例 基本理念

1. 県民の自主性の尊重
2. 県民の創造性の尊重と能力の発揮
3. 年齢・障害の有無等にかかわらず、等しく鑑賞、参加、創造ができる環境の整備
4. 文化芸術の多様性を尊重し、多様性に応じた保護及び発展
5. 特色ある山梨の文化芸術に誇りと愛着を持つとともに、他の地域の文化芸術も尊重
6. 山梨の文化芸術の国内外への発信と文化芸術を通じた活発な交流
7. 県民、文化芸術団体、事業者、学校設置者等、市町村、県の連携及び協力
8. 観光、まちづくり、国際交流、福祉、教育、産業、環境等関連分野の施策との連携
9. 山梨の文化芸術を県民の資産として後世に継承

2020年度は、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、当初計画をしていた事業番号1~3が開催中止となり、上半期においての子ども達の演奏機会の減少が著しい結果となってしまった。不足の事態により、計画に沿って通年事業を遂行出来なかったものの、制限された環境下、感染予防対策を講じながら、6月より合奏活動を再開した。下半期は、事業番号4「まるごと体験教室 Vol. 2」、事業番号5「第10回記念定期演奏会」などにおいて団員ら青少年の豊かな感性を育むとともに、調和の精神の育成にも多いに寄与出来たと評価する。

助成に値する文化的、社会的、経済的意義等が継続して認められるか。

我々山梨県立県民文化ホール指定管理者は、前述した『山梨県文化芸術基本条例』における「文化芸術の振興等は、山梨の文化芸術が、県民共通の資産として生まれ、後世に引き継がれることを旨として行われなければならない。」といった趣旨に基づき、子どもたちが芸術・文化を楽しみながら経験する機会を提供することにより、将来の山梨の文化の担い手の育成に繋がると考え、これを大前提の目標として掲げ、本事業を展開した。

今年度は、海外の演奏家を招聘することが難しい状況の中、日本を代表するヴァイオリニスト・古澤巖氏との共演が「第10回記念定期演奏会」にて急遽実現し、公演当日のみならず、定例の合奏練習でも直接的な指導を受けることが出来、子ども達の音楽人生にとって、何ものにも代え難い価値ある経験を提供出来たことが最大の成果として挙げられる。このような活動を通し、国内を代表する演奏家との共演を果たしたことにより、飛躍的な演奏技術の向上を図れたことはもちろん、青少年の健全育成、豊かな感性を育むこと、調和の精神の育成などに対しても大いに貢献することも実現することが出来た。オーケストラに参加する子ども達は演奏活動を通して親・兄弟や親戚、友人、地域の人々に音楽の楽しさを広める重要な役割を果たしているとともに、将来的に地域文化を牽引する人材となることも期待される。

(2) 有効性

自己評価

目標を達成したか。

本事業遂行にあたり、下記の通り目標を設定した。

【目標(抜粋)】

当共同事業体は、子どもたちが芸術・文化を楽しみながら経験する機会を設けることで将来の文化の担い手を育成することに力を入れており、「やまなしジュニアオーケストラ」は、その中心的な取り組みに位置付けている。

定期演奏会をはじめ、地域のイベントへのゲスト参加、YCC県民文化ホールで開催するプロアーティストの演奏会で共演することなどが主な活動となっているが、子ども達の出演により、クラシック音楽の新たな鑑賞者を生み出している。

当共同事業体は、「やまなしジュニアオーケストラ」の取り組みを通して、子ども達が文化活動の活性化を促し、誰もが「自分の文化」を持ち、活力ある地域づくりを達成することを目標として取り組んでいる。これを大枠な目標として提示し、以下の指標目標を掲げた。

指標目標 1：団員数の増加

2020年4月時点では、前年度末3月の退団数が8名と著しく、29名といった減少傾向にある状況で活動を始めた。今年度は、学校機関のクラブ活動などがコロナ禍において相次いで活動を休止する中でも、当団は積極的に活動を継続展開した経緯と、日頃のPR活動の効果もあり、例年以上に入団希望者が現れ、11名の入団実績を記録した。近年では最大値の入団数となった。

【2020年度 新規入団者】

2020年7月：1名入団(小6・パーカッション)

10月：1名入団(小2・ヴァイオリン)

12月：1名入団(高1・ヴァイオリン)

2021年1月：3名入団(小3・ヴァイオリン／中3・ヴァイオリン／高1・トランペット)

2021年2月：4名入団(小4・ヴァイオリン／小6・フルート／小3・チェロ／高1・トランペット)

3月：1名入団(中3・ヴァイオリン)

指標目標 2：定期演奏会の来場者数の増加

新型コロナウイルス感染予防のため、限定600席でチケット販売を実施した。

チケットは完売を記録し、さらにこれまでの定期演奏会では最大の来場者数を記録し、開催記念年に相応しい実績となった。

(3) 効率性

自己評価

アウトプットに対して、事業期間が適切で、当初の計画通りに進んだか。

アウトプットに対して、事業費が適切で、当初の計画通りに進んだか。

本事業は、5事業を統合した通年プログラムを綿密に計画していたこともあり、新型コロナウイルス感染拡大の影響を除く場合、特筆する問題も起こることなく、事業を遂行することが出来たといえる。

しかしながら、例年の場合は、およそ3ヶ月に1回のスパンでイベントに参加することで、都度次回イベントに向けて定期的に新たな課題曲に取り組むため、演奏技術と経験値の向上を図れていたが、今年度は、これが下半期のみの実施となった。限られた活動期間ではあったものの、助成対象外事業の活動を含めると、12月に1回、2月に1回、3月に2回といった活動を展開し、コロナ禍において子ども達にとって貴重な演奏機会を提供出来たといえる。

事業費においては、全5事業の内、3事業が新型コロナウイルス感染拡大の影響により、開催中止となったため、当初助成予算額の約57%減の金額の範囲規模で通年事業を遂行した。

「やまなしジュニアオーケストラ まるごと体験教室 Vol.2(事業番号4)」においては、以下の理由により、当初要望額よりも低い金額で実施することが出来た。以下の変更理由の通りである。

■ 「やまなしジュニアオーケストラ まるごと体験教室 Vol.2」

交付申請書提出時の段階では、前年2019年度に引き続き、ゲストに迎える予定であったが、より当団の雰囲気や様子が参加者にとって身近に感じられるよう、敢えて外部人材の招聘は行わず、当団従来の指導者主体による企画内容に変更した。結果として、内容の充実度は変わらず経費削減を行うことが出来た。

全体予算で見た場合、開催中止事業なども複数あり、経費は抑えられているものの、「やまなしジュニアオーケストラ 第10回記念定期演奏会」においては、予算額を上回る支出計上となった。以下の変更理由の通りである。

■ 「やまなしジュニアオーケストラ 第10回記念定期演奏会」

今年度当初は、例年に引き続き、ウィーンをはじめ、ヨーロッパ各地よりゲストコンサートマスターを招聘する手筈で進めていたが、昨今の新型コロナウイルス感染拡大の影響により招聘を断念した。

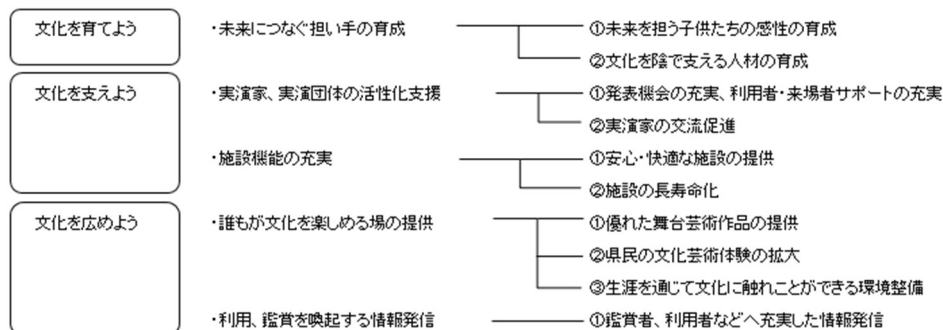
その代替案として、開催第10回を記念して、特別ゲストとして日本を代表するヴァイオリニスト・古澤巖氏を招聘することとなった。上半期は出演機会が大幅に減少したため、年間の集大成として位置づけている定期演奏会に注力する方向に途中切り替え、当事業を展開した。そのため、要望比が123.57%といった結果となったものの、演奏家の高い表現技術をより身近で吸収し、各々の演奏技術の向上の実現を図ることが出来た。

(4) 創造性

自己評価

地域の文化拠点としての機能を最大限に発揮する優れた事業であった（と認められる）か。

当事業体は、「文化を支え育むやまなし」を経営理念に下記図の通り、施策の方向性として展開している。



やまなしジュニアオーケストラは、図の「①未来を担う子供たちの感性の育成」、「②文化を陰で支える人材の育成」を基本方針に位置づけ運営している。今年度の活動は、YCC県民文化ホールを拠点とする定例月2回以上の合奏練習を基本柱に、計4回（助成対象外事業を含む）のイベントへの出演を果たした。対象事業の活動成果は下記の通りである。

■ 「やまなしジュニアオーケストラ まるごと体験教室 Vol.2」

当イベントは、少子化の影響により、創団当初に比べ徐々に団員数が減少傾向にある現状から、入団促進の目的のため例年実施している。今年度開催では、団員によるウェルカム演奏や、合同演奏に加え、より当団の雰囲気や様子が参加者にとって身近に感じられるよう、当団講師らによる企画内容を大いに盛り込んだ。

講師、団員らに向けて積極的に知人へのPRを依頼したところ、イベント当日は楽器未経験者を含め、未就学児（年中）から中学1年生まで幅広い年齢層の子ども達21人に参加いただける運びとなった。（その他申込希望は多数あったが、新型コロナウイルス感染予防のため、参加人数を20人前後で打ち切りにした経緯あり。）

今回のイベントでは例年以上に県内様々な地域からの参加が見られた。前述の通り、今回は、より当団の活動内容や雰囲気を知っていただくべく、講師主体でイベントを展開した。鑑賞型（ミニコンサート）から参加型（打楽器体験、指揮者体験コーナー）まで様々な企画展開を行ったことにより、終了後は参加者の関係者から好評のコメントを多数いただいた。また、参加者の中からは、入団を望む声もあり、イベント終了後は1名が入団、練習見学には6名が参加した。さらに今回のイベントを通じて、当団講師の個人教室へ楽器を新たに習い始めるといった動きも見られ、今後の入団促進の効果が大きいに現れた結果となった。

■ 「やまなしジュニアオーケストラ 第10回記念定期演奏会」

今年度は、団員の他、OB、講師、賛助演奏者（入団検討中の学生含む）など、総勢85名というこれまでにない規模での出演者が集結し、10回目開催の記念に相応しいグランド・ステージとなった。今回の定期演奏会を機に、当団の継続的な組織力強化のため、今後もより多くの卒団生に出演を促す形で事業展開していく。

また、チケット販売促進のため、前年度に続きTVCMでのPRを行ったところ、予想以上の反響があり、1月末にはチケット完売を達成。新型コロナウイルス感染予防のため、限定600席での販売数であったが、これは団発足以来最高の動員数であり、掲げていた指標も達成することが出来た。

自己評価

地域の実演芸術等の振興など、地域の文化芸術の発展につながった（と認められる）か。

やまなしジュニアオーケストラは、「文化を支え育むやまなし（（４）創造性 参照）」を基本方針とし、音楽教室などで個々に学ぶ児童や生徒に対し、「合奏の魅力発信」、「合奏を通した子ども達の協調性を育む場の提供」、「豊かな感性を育むこと」を目指すため、平成24年4月に設立、これまでにおよそ10年間の活動実績を積み上げてきた。また、当楽団は山梨県内唯一の子どものためのオーケストラ演奏団体であり、県内全地域や近隣県といった様々な地域から、小学校3年生から高校3年生までの幅広い年齢層の団員が所属している。

当団は定期演奏会をはじめとする通年年間の演奏活動を通して、普段日常の学校生活などでは経験し難い一流演奏家との共演やレクチャー、同世代の海外ジュニアオーケストラとの共演によって外国語を学び実践する機会になったり、文化や習慣などの国際交流も行えたりと、音楽面での技術向上のみならず、青少年の情操豊かな心を育むことに対しても成果を挙げている。

また、当共同事業体は、やまなしジュニアオーケストラの活動を中心に、小学校6年生を対象に開催している「万作の会 小学生のための狂言教室」や、母子が同じステージで作品作りに取り組む「山梨演劇サークルLife」などの取り組みを通して、子ども達が文化活動の活性化を促し、だれもが「自分の文化」を持ち、活力ある地域づくりを達成することを目指し、山梨における舞台芸術の地域中核施設の役割として、活動を継続していく。

【当共同事業体による担い手育成の代表事業】

- (1) やまなしジュニアオーケストラ
- (2) 小学生のための狂言教室
- (3) 山梨演劇サークルLife
- (4) 劇団四季 こころの劇場

(5) 持続性

自己評価

事業を通じて組織活動が持続的に発展する（と認められる）か。

今年度は、活動数は減少してしまったものの、「第10回記念定期演奏会(事業番号5)」における古澤巖氏との共演では、「弾き振り」に合わせた演奏を初めて団員らが経験したりするなど、練習から本番までに至り、アンサンブルについての指導を一流の音楽家から直接受けられたことは、技術力向上はもとより、子ども達の今後の活動におけるモチベーション維持にも大いに繋がる功績となった。本番のみならず、練習においても国内一流アーティストの指導が受けられたことは、コロナ禍で活動が制限された中で、事務局で大いに工夫を凝らした点といえる。「音楽による地域の青少年の情操育む」といった楽団の目的に対し、これは非常に大きな効果が図れたといえる。実際に団員や関係者からは「今後自身の音楽活動にとって大きな糧となった」といった意見も見受けられ、各々の演奏意欲の向上に繋がった。

演奏技術面では、前述の通り、古澤氏による「弾き振り」による合奏を経験し、「チャルダッシュ」や、「タイスの瞑想曲」といったヴァイオリンの代表作品、さらには後期ロマン派を代表する「フィンランディア」や「新世界」といった大曲など、多様な時代、ジャンルの作品に触れたことにより、テクニック向上が図れたことはもちろん、演奏を完遂するための集中力や技術習得に至るまでの数ヶ月に渡る忍耐力と継続力などといった面でも団員らの成長が伺えた。

また、2019年度、2020年度と二カ年を通して「地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業」の助成を受けたことにより、助成前の従来年と比較すると、特に広報活動に力を入れることが出来、「定期演奏会」のチケット売上数の向上や、「まるごと体験教室」への参加者数の大幅な増加や、関係各所から反響の声を頂いたりするなど、様々な方面で効果が表れた。さらに地元でのニュース、新聞といったメディア媒体での取り上げも増加し、全県に対し、やまなしジュニアオーケストラの存在や活動を大いにアピール出来たと総括する。

活動10年目を迎えた当団は、今後も安定した活動を図ることはもちろん、次の10年を見据えた中長期的なビジョンを持ちつつ、OBOGといった卒団者との連携を取りながら、将来的に地域文化を牽引する人材の創出も目指しながら運営していく。